亭子

蠹魚之住居物語

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak

愛知県文化会館
508738

志みのもりこう物語下目録

家司壺ケ谷結果をとゝむとす事
陪従春近下部小雪伴張仏ゝる事
價二百ゆせる柑子乃事
大進有恒ゝ書閻王の廳ゝ参ゝる事
餅を買く接子を拾ゝ男乃事
孔雀をゝてあそぶ翁乃事
紀直方兄弟乃子を論ずる事
宮司ゝ法師闘諍ゝおよぶ事

A935
1
1-2

桶工暴風をとろもぐし事
家をくゝる男を妻いさむる事
文字をゝぬ男出家をゝる事
大きゝ所弟子をあるゝ事
戀やゝきゝ給ふ者の事
人宿をゝく物とゝまるゝ女の事
ゝるゝ博士をおて書借んといふ事
越前守ゝ花水紀花を見ゝる事
未央宮の尾硯重寶とする事

小面実物人をやゝ殺ゝる事
多人従者雇けむとゝる事
椿市の宿の事
琵琶法師夕立に逢事
竹垣をくゞりて首出さゝる男の事
袴着て姫君をいさむる乳母の事
学者源の廣が家のゝを乃事
検非違使の下司ゝふゝゝる人の事
某入道のゝて柳をきるわをゝる事

同童蒙ふうくいわう孝
丹後國の廓人龍宮ふり孝

○
ある年ちに弟ある絶けいしあり名をさうさう公
せうしものたりとて、ひとれをめしはたらし給ひ名をある時
結果
かくの乃ぬわを、むくれ大さふはたらせうず、妻よいまて、
掠
きたりしかたをあり、この はたを、うつくふよりうと
ひ孝ものふく、云おくれたるふれて、くちハ
手さいるくばかわせ、くそいきぬくらふつわ
ゑふものあるを、ゑふわ、さうくしかとまきばうの
けいしめいでくものをるせちせおりこそふがかの
はたをいぐさ孝行ひてとりいぐうるくとの孝ふ
手いしおづくゆゑ紙をぶえく、妻のはよさいき
名ふぶ、ぬひとたるふおわるぬれど、どくすれども、

めをえざるとなれば後よりはさまのとりすがりて先人ふ
うさあり又すふいとくるるがと行ふ人くことるるて
さあるくもあるうへどふつふあるまじあるうへをせんをべ
あるしにるるさ家るしがしうちるるるて いづくはをて
洪の如きいとりてかをるをふへばはをを三四よりをを
るるくとるるあるあ人くるるて あいしがあをせるんまじばかく
れあハ二年ばるるるつるみくをるるるさまじばらてあるあざち
はまるるて これはをあるるひあくこあへるるけるるざるふ
きえをせけいしハかるるくかるふあるるをばるるるけふ
はるるひるるるるものるるる。
陰從春迎るるひけるるるの雪いるるるふるるる果するるあ

ふるるるるるる史櫛の史かるいをせがるるざあのあるるあるる
をがるるるるて るるるあけいしけるて庭ふかるるるるるを迎
るるるて ゆきるるあるるて鬼のるるるかるるけのかるるれど
はるるるるるせるるるるのるるるる中宮の御庭ふるるる雪のやう
るるるるるせるるるるる

ぬまに。遊よりそちをるに。ゆきハいやはなさりにこうり。春さ
いきくふるゆゑなれば。いよく春をまつ。春をまつの雪をぐ
に。ふるむはんれい。汝哥云。ふるさとハつまとなつ。
ちるべくともあらぬ。

風さゆ秋よりはやをいたす。起あるてあるじやあるう
ふとれちるを雪。やをちるやうにいふ。くくなのくさしふ。
にだていつぬのちりかんぐうをもはれば。ぐ。
ちるおくにいふ。ちるべし。

○

某乃大納言乃太郎君。ぐくうづくを行ひ。なのもの
はやくこさるつ。ちさず。はきちの人くあをうつはは
て。なつてまぐひどまうれはは師たるへのかんたぐふぐ。

かくふのくちるさくかくて日数をれをよろしうも
ふくさせ行ひば。父の大納言はるくちくより行ま。
いふかうこのもこさるつめさぐ。紀めをば。ふを給。付ふ
ものまぐ。するつそこのきこ。ちくてよ。をは。潤ふむをぐ
てのをこ人ハ。太郎君。いきのくふたに行しとも。おくしい
侍くぐ。さまをあ。ちにのこふこのこりれをれば。
せめて。柑子云ちをこ見ちり。やの行ふ。ひるまを
しをあちりてやく人はすらせて。ちやを行ひ
ちわぐ。これづふ乃ちるうちをハこやをいをうぶを。
あをを人乃家。あふぐるをををえつまぐたくのを中決
大酒をいらち行くちぐれをるをたうををうむ。

そなたあつかひをなのりて、こもりゐたりし秦の
武安といふ者、からうじて伏見のかたにくだり、横ゐ
ゐ川、
ことゆゑあつかひをなぐ、二百両とうこまらくし、ゆく
もとめをもとめ給ぐ、ゆづるふたりだをぶたまはるすが
まぐはつうをるとい、さうのことのぶたこまりめさるとなる
をたくふだうはまめう行へふ、うきーうをたうとて、武
安よそ、おりく勧賞ありて、ちめさせ行なるとさてのいつも
たる柑子ゐいめばーうをたるものれまーばてふ所をよれハ
もあるにざるの神をあへんとあるーとてかーつをを
取すをは使ふく、ゆーをて行へ、武安がちとべ柑子の
へをるかーつををもちくゆ七のあるゐ、二百あゆく

をてて、ちろふ却をひなるハ、六ふくもよ紀あをゐのこのの
をうふをまめをこて、人ようう海ーうばよ紀あるひをを
ををうーふく却をひて武あう道ふくやをもひをうををを
うめるひて、かうをうちかるをて、いづちとをれくふぎうせ
をうるとふのちまをのいうるあるふをうををうをもいぶ
うし、

○

大進ありはをうぎはをうハかをちうんにくて、ちうをふぎく
しく、おでをーうるとをうつをよあるは孫をちぶるて、
これちよをうやをもかをーずあと人ををむ人行ひう、
よるひをうあうつをうふをを後とさよあうもハいうで
をなどうーへをうをーうををてうるをけるざでをきるすくせ

みやこの事ゝ聞あつめ面〻てこゝ世ぬ。あゝ世ぬ。うちの事
れ。ぞいとゝ。日数面に。なるのち。ものゝ。お人よもゝあゝ
て。ゆゝこは。ア。をむ人。ちける。げゝめ。ア。ぞゝ。ゆゝ
ぶゝ。ハ。こよ。なゝよゝ。ゝけゝ。ば。むゝ。ちゝ。くゝ。れ。むゝ。び
ゝ。ゆゝ。て。ゆゝ。ものゝ。ちゝ。ハ。よゝ。ゝ。ふゝ。あゝ。て。世事。を。ゝ
ゝ。ゝ。閻王。ア。廳。ふ。ア。ゝ。て。ゝ。ゝ。て。ゆ。さゝ。ゝ。つ。ゆ。ちゝ。ぶ。
ゝ。ゝ。ゝ。を。ゝ。ゝ。て。ゝ。を。人。と。む。人。侍。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。れ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

いうまでいよいへふるのをかをさてもうふ髪をなぐいう白
くををやうなるすぐしてあるいでをもめなのをさる
みふくさうるおのちしてさるふるまを云をみをいと
ふさうるいさいう事かねをぐぬくゆるもちぐけと
のををふかいらるをいらせうあるわおりしなしなが
袖ををくくゆ霊をりしを義又やをうゆ一ときま
えをかせうをいを云けふ
ある云を大佛殿をぐくてかへさりあるうれるうき人
のいへふをちちりて人ばをふをちいかをやをてをふ
ち いをちぐやうありけまだいぐをむうをちいをうつをを
ふをず あさをしくつうしををいへをあを人をいの

をちを云ちいさうをず をうの行人ハ一ちゆう大佛殿を拜を
行人ふをなるをしかの大れふはをなけををいしをを人ふ
めうつしふををうゆのをのふををやうにはををんゆを
ぬいへをげふをふを事あるをしをををちををふををを
いまを一二町ありをゆをなるをちれをうをにをうるを
ををわをこの人のをををををやをうにれをりゆをふ
ををんをあれいををしをををいねをゆををうにをを
あゆををををををいをををををを町ばをあゆをに
れをゆををふれをををををををにををいををを
をををををふををををををををををををををををを
尼ふをあをををれをを

あふ所乃大饗に中間うしかゝ云ふ出門のあるに
うちたゝせ。かしこまりあるじうちして。をわまるう
おもちさゝるみけを敷。翁のいでめさに。與あるつぎ
してゝ。せむとの人ばらうしろをなぶしいふとをちめ
ゝとまちをるふ。翁ちゝ云ふとりいぶし。人ゝに見
せゝいたの蟲のこてたゝ所ゝとるいぶしてゝ。せむ
ず。ゝのしてゝちゝゝをのふ。舌をちるふ。歯うちたゝし
てゝゝゝや人ゝちゝゝをけやうのんどに入れ。さていた
のんどをいるゝをふゝゝゝいぶすおゝをゝふゝゝをを
さゝゝてゝちゝをゝとゝいぶしゝゝをゝ。うゝゝ云ゝあゝゝ與
ど後ばゝゝうのちゝゝをゝちにいまゝゝてゝおのゝをば。

人ゝのゝをゝに酒ゝをゝゝ。いぶしゝてゝんゝゝゝふゝゝゝばゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝいぶをゝふゝへばゝゝゝゝをゝいゝゝゝゝゝゝゝいぶしゝゝ。
ゝゝをゝ。ゝゝゝゝゝゝゝのゝゝ。ゝゝゝゝしゝゝゝのゝゝ。髮のあゝゝゝ
ゝゝゝゝゝいぶしゝ。あるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝをゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうにあげていちどにとりふたのとをいとるうたの
かつをけまは奥さえしで沼あてあるじも乃乃ぞちう
ぞおどろうせ給へく何事ぞとて子細さうせ行て云れ
ひうとせをもしよりなり
左兵衛尉紀直方参世乃おまへこのにうもちまくしお
おとめくいいつはるよ人よりうまなる兄弟の子を
ちうるーが父ふ云とーおとをいうふものにぐあり給る
或と紀弟なるもの兄よむしてとしなるハ世ふおわつう
るさ事の。おいふ中に釋迦佛の孫ろん會誕生會
ちをもちうもえ孫ささうぶ乃ちにうせ行て屋ぐて
外月乃八日ふうまれ出行へるいというなふ子細さうう

ふふうやいへばえさをあへず。ちううぐふなるハつあ
ぐきうえぐふなり。まべて乃人をバ二月ようまれ出うう。
外月ふをめぐれやをかけハ神通おりて世ハ生死出
さうえ出。おわうう人とそいとうとして。紀ぐちく
ちふおるをうまれ知行へふく。ふうふ。佛ーあくは
おりてを後とへハ父云とけなるふとうふさくをうて。
をあうう。いうぐおを学をあり給。かくてを。おを
屋市乃ちぐ。おしをうを。まをのうーかくんをほ
めようちびなわ。
むーー菜乃國乃ふるふををよくかくはあうをうと。
うをうちうさ人のぐををたうれかーふゆさて。年ふ

あるふさとをぐし給ふ。なを一所ふ官司ゆく。えせうこ
なぜうしむ者あり給ふ。おとひ法師ぐもりふけるふ。弟子
りう紀てやふ本に。捕ふ文字れるぐ紀ふ。ちうの
をふく。をけぜうふきるとうく。文目あざうじく。
御坊ふ。ん耶のたるひざりをぐ一ふををかる
ゆや。捕をおくのおをうちひがたうひく。但ふ捕ぜ
いうんとおのうちうをく用くかくれるおのうんま
見ん。をれ。第の捕るれ。おけとをを紀行ぐ給れ。
さうをふの道ふろえたる人ふれ場うれどこの國
の奉ふぐやちくちくおりに給ふ。ふへ。法師をえぜ
ようをふ心寺ふ紀ふをちて。ぐうをれよ。ゆく行ぐさ

人をうりをまぐ。けうぐをちて。ごまさうにあやりをまをすぐ。
りぬし順ぬ一ぜふ和名抄ををずゆ。ゆをうを乎計と
ゆ紀であるを。法師ををふ紀掘ふたをおそうをまをれば。
ゆぐふをれるず。をふゆうをまを人ふふ捕の時ふのをを
けとかををうう。をうくあやをををまぐ。ぐ一をを人をを
ゆ紀ふをまをふゆ人ぐ。ゆ文目をを大ふゆるをて。をまぐ。ふしと
をを目。備れ奉ふ。紀ををかうふのふを。ふ紀ふ。ををうをう
ふ紀ふ人をまを。ふを。きをふをふ。ふをを。ををとをるふの。
をうぐ紀ふあるぐをとを。ををくあるぐをうをるこふ紀。
いふ法ぐけをまぐ。ふ法師をとをあぬ筋をを。念珠
をを。文目ぐ法ぐをを。をうぐうふうをけまぐ。文目を扇

をあげて法師がかべのまへばりのふうちゆにさそいきたりてゝ下にすわりてどうらあしをするとむこうの方をさきつあてびおとけたゞむまどもかくてにはうたちてうあひうず法師も高目もかくうらをいまず大なる柑子のうつあをもつまを取りにたまあるまぬされば取むべきなりねばいくふをあ後ふ目の内まへうに出くふたものこころあ知めやすべしとそいまさを会じてやうし文をもちて廳よいでぬ守大ふいうるとる。おのうの高目をこさよくあるこさのうをもちいをきをまつりて弟ふ法うまつるまつう道ゑまを法師を乗和をとりてゝををちゞむ後乃世のひとふどと知らす

ゑをおのまらゆまけじとろろのはたらくいさうひうち
あをて、病をさへ癒ることもづふろふをおとるも
そるこころをそやよりあをいずれの藏をあし
けふちとかくあひやらふべなまこともとのおちんをぐを
ふくおりくつこ人のいでることをはふへたなげを
おりーませばたのをびれとうをゆるつ、おのれらづいさ
うをのちづめハ、掃とうつ字のかんをうう、幸おとるぬこ
きあづたとわるべさをたをとう絲どやまとうへ人をとの
おとうづさるをあふをーへをすれるかんをつ云
のをとをるせる書ふ、れをこをけとう紀るハ未をてつ
くまる、掃のをとふをあづかなむもりーたをまぜ

顯宗天皇、仁賢天皇とさちくなまるハ市兄弟にたい
ゆて、兄乃こころを億計、弟みをを弘計とやをるもー
たのおちんなとともにおけをけふて、ゆ紀きやすれて
かんおのおををぐへじとて弟こをとうわにこをけとまる
ーたをそかんおばぐたの書よかよくめ重てーを後の
人を日本紀をぐたえよりかされハ、先達のをろをもをも
いろづたるあて、おけこをけハこづいるうつハぐとてろ
えあやまちをるるわをく掃乃倭字ハ、呪あをの書ふ、
乎汗とおまこればとまてよるべあをとまわをぐ、後の
世これるとてを歌のをちにををてるをの節の家こ
うきハ、おのく師ふをろぐいてをーへのをにかんをと

そさまもあるべしとやれくゝまま。爾くれる物あらぐ。
さまにしにぐる闘諍ふ及云めるまと奇怪なりとて。
ちるまて雖のふれ形ひ爾もぬ。爾日も法師もふてび
いいでむ絹を乳くてごぶのいゆるほどゐ十日ばうゐ
をちし。ちをわをわるやるや。

○

都乃ちつてに槇をつてうる男あり。杖のちろ風
をげしくふきいぐゝちるゐ家をちちふて。本
れ枝ををへをうさ紀をすひいぐやのいるのはぐれる
ぐらをよとむうふ爾。されぐくふけの紐よぬさまのあ
するちち。槇ちち。妻ふむりいてけるゐをくにはむ
爾ふ付さぬくく神乃ちをへふをりしよをちてをを

神酒 粿 米

いふちのこ紀をげしうるをて家乃ちもむゐ道ゐやを
あるけう乃幸いふ男うれをへば女ふあさ爾ちまで。をの
こう紀。ぐう志ちぬをのこむ。ちゝ。ゐよ。米買ちをいれ
しぐちふ人。ぐ身いふりいでれむといひるををの
ちのさをいまで紐よりまをるが。ぐれく。夫をいを
ど紀位ををわたるをくやをつるをあををであるすぐ
て男乃いへるいををゐ松ぐをにををさばよ紀ゐ
をあじをふゐ妻をばゐふ風をつをを。何家ち紀ち
ゐるをへぐ。夫ういをく風あをく映めれハ物ををゐ松を
をを。人の眼をいぐぐう。されバ月をやむ人へ松ちいでを
れむこれをうちびいをゐべををにをををふよ。ちハ

いよ〳〵いぶるまて人のめをやむがいとそ家乃さいをひそ
はなれとこへハ文ふく牝のちろたどゝざる人をたゝのをし
をえもろじめを頼人打わるまゝどゝをずハ因はぶ
きて物こゝとりぬべし。さる物さつよちなハ法妙を
うるべくれめくゝはゆちうゆ代よゆくゝふよあるま
しゝる。三絃（さんげん）とゝふもの弾（ひき）くちゝをゝとすゆるゝさゝハ
三絃よのなりに打おれくれぬべし。これるゝゝゝふよゆ
さちのさゝれるるゝとゝへハ妻ちゝ三絃の世ふをやわ
ゆくゝをゝ乃さいゝひとるべうゝ物ゝとゝふ夫をゝ
三絃をゝ猫ゝゝの皮（かわ）をゝて〻つくるゝわ三絃のけやゆ
うハ世よあゝとゝ〻ある猫ゝゝのうぶつゝゝちゝ市ゝをゝ。

をゝにおぬべし。おゝをよ紀さちゝ乃ゝまゝづくゝをゝれるゝと
ゝつをを打いぶるゝてゝくゝハ猫ゝゝゝゆをちふをゝうゝは、嵐（あらし）と紀とゝん
てゝびゝるゝくゝやのをゝふゝずゝをゝをいゝすゝこちゝの投ずを
ゝかゝちゝさゝをゝざゝちゝけ乃捕ゝをゝゝれゝをゝひゝやゝぶゝるゝゝあゝるゝた
をゝげゝゝをゝゝて〻ぶ紀をゝゝゝをゝひゝづゝゝし。ゝをゝゝぶゝゝゝ郎ゝゝあゝを
ゝのゝ数ゝゝをゝるゝゝて〻ゝゝをゝゝゝゆゝゝゝ

ていひけるハあまりに男ふりなく、こやびをのこもの、こゝろ
用意ふかのこゝろまへあるおとこ人ハ、かくおちあるまじて
侍。これにつけ、乃いつひるふよりまた、おとこもしこゝろ、
こゝろれふあるべきをこゝろ人あるこゝろをこゝろ、
いで、ゆゝしハふるまて起ゐて、ふゆの、の雪氷夏の
日のてりてをくふをぞ、ありをひを、大事にして、
こゝはまたとめめれば、こゝいへゆゝしふりたふ、
てをふる紀福者ハ、ものよりわ、わざこもよりれあ、
りまして、いとよりこゝろをこゝろ、ひ、行く、
ふこゝび、をよりし、るわ、むに、ものし、をを人やこ
ゝろ、なのこゝ、ぐこゝて、いへハ、男ゝ、けゝ、ぞ、ゝて、こゝろ、ものを

人乃ゝ人をゝ、ゝ、あ、ゝ、こゝやびゝ、ゝ、ゝ、

おもふこんじふをもむぐるのがまて出あしてたわもぐ
すりける人をもつもりくなどてやうハおいすて行ひたる
かきたりしとへばゆめ西ぐろしれせふさのくふやぐむ
爾ーやだらーみ祢出茶きろうろ乃あてなどの版
うおたろぐ人のうーー屋ぐーーて、やくハのぐれつるくと
いへ伝ーばさもあてうめてうへ為むに名をバいうなあう
をあ行ひつるとへバさい西おんと音師乃ぢをてをるへる
をうとへいうる数文字にろやとへバさいい為方浄土の
西ふくぐるさておんとへうへまこ五又ろしざふ文
字ふてあき真字をてう紀つきバ六百乃文字をあ
をせるる屋ろるわやくこ弟をてうふつきハ七百の文字

をあ世ろるわとでいひたふ出ぐくる人をうー紀と
金ぐくかるあうかる文字をて行ろうへくいとか
ちひふをぐあていふあるもやふ人の道ハ行ーる
をくなるくぐ堅固なるものぢと人いひおさる事ありや
ちうず。

○

大左郎とへふぬをびとあるをたる重子をる紀あつめ
てぬをくす爾ふやうをどーふをていひたるを人のあう
ちろひ入をるを紀をのれとのをたぐをを乃ちをくく
ぢをてうるびくをやくとぐ免ろむ世の附ふぐず
して猫乃ちををるーまるこ亂れちをるすべーちうす
きバとぐめぢふをのさハ祢こねすこれさうぐぢと紀を

ふくうちとけくいめるものでやうこうちいてむずとて戸
をあけんとするに内ふくなにものぞなどいで犬の形
をせよ又えびのかつををそりくくなどしなど
さんぐかりとをおくくとそ〳〵なるやみどもそ〳〵られつる
あるに三ぬぐれ名をまねいふ中ふ一人のいまめうろ
をのあるなるがいでえびのかつをふとしてこんとてとぎぬ
りいでく戸れもとにをくずして物をとりて右のくらふ
やうにおとをそつ内ふこくめるやうでもまさしくなのく
らつをまぐしずあつれうちくもちろれとかしまバ
大左郎こそて名ハよく似れどをちをぐ〳〵くらつべき
ふあ〳〵ず地ふうめてせよとぐいひたるぬすびやと乃

こちにくをおの大太郎よをぶるかうおをのハあ〳〵ざる
さとこそつれる同業乃名の物をたをふをを
むうやぐよれふ伊をちよいうおめぐをを行姫君れ
ハ中わ市かちをべてのをををれハ中ををずてう犯うを
らををいう和ふををもをををけをうハおをををす。この
姫君ハうづををのはずめよを市ちをいよををぶひて。うや
をぐちにうを絶へをとわををて。おををとををを
行ふをををを見くをを五ハねど。何ハ物く伊うをハを色
物く。やををハうををて。おをのをををもををくをのわをををぐ
ちをぐをみ。やぐををうをぐを行く。青くに作をを行ををどをち
をくをををををとを。なをハ物をすをををふく。見ハをををぬある

ひはてたるひとのかのけつるふ。
あるやうにおもふこゝろ悪なる義おくはゆハきゝゞ云わ
孫のよまいたるの発とくせ行へつたるを伝授とい（るれ）
ものしゞとおまをとりて出めのとまんざうしまちゆき
てさやおけるを云め君のゆありさ函を見給すれ
ばらのはよ乃出やまいとも見給ずとわゆ中さんも
明こ今まで出とも十七においませば。そ人を
こい行ふ出ちうおりて所をさゆ分をなげかせ
くんじ行へふふやとひて。かの出てなるいとういでく。
こすればめのとまをうちてさるとりくはあとよとも
をゞよまるて後るさまくをまいうるゆ蘿ゆわ

とゝ。むこゞよとゆ行ひてんゆ行へく姫君よとひきて
まつるてあゝふふさあくをまるてんとて。二人うちつまて。
ゆ枕ゝちうく系て。かうちうく姫せ行へふふ紙。
父ゆハさうゆ見ゆ見ゆうまつる見をふ人くまでこうう紀
おとやゝんゝこちうゝ。いで云とひもはやくどこてせ
行先ゆ者ゝゝを神仏ふいのるゆ行くゝふこと紀うて。
日をるて行ゆ。そ出ふうゝ出せ行ふいとありて。いで
かくれゆゞ。ゆをゆすとおハさゞあめ乃ゆをゝさう函
ふゆるゝてゝゝこいうゝ乃まに。ゆ者をゝてむゆくまでおい
らうふおゆ世行へゝとゝせば。ゆめゝゝすゝてゝゞ
らいをふひてゝゝゆくゝゞのとゞゝるまのゝふひいゝて。

うつふて指をゆびにくはへてとかくなりあて
いるれふ人をうこひさせ行ふるはさしく法名をけて
れ申さ人とゆ世ぞ。さてにはいくへあるべかりず。こゝろ
を。葉乃中納言どの。これ〻れ宰相のさゝふやぬど
とひきてまつまどゝろふはいくもべかりず。さハまいの
沖をのこぎ乃はゆ牡ゆまバあるつゆ世乃人をさして
と云まゆ〻をむを。ゆ〻ふはいくへあじ物をよをへて
殿の人かの人をさして見だやとゆ彩をひて。をのゞあの
ふゝどゝを。おらとわ出く。あゞ沖ゝ乃あゝあにすゝゝ
世殿内むゝ乃君を光源氏などやはこゝろふかゝるひあ
ゆ。ぞゆ世ぞ。こゞうちふゝと行。かまをあゞくし

うまバいとゝせ申さふかゝるむ夕霧の大将のゞゆ紀実はな
なるふをいゝるゝ世とゆ世ぞ。殿おゆすゞさ乃にいくへ申さハ
ず。めの殿をさゞゝうをの大将ゆをあめつゝ云はをめでつま
はまいふゝをさはゆまゞ物をのゝ乃ゞ。さてかゝふふ
旬をよゆ。かゝのくゞ殿在中将平仲などをさゝとり出
てさゝはゆれゞはやくいくへゞふ出行ゝゞバめ乃とすゝを
ゆゝて。ゞ耳ふゝゝゝ

らむ人にて、紙人（かみびと）やとはきめとのめひ、なふめのとも侍侯
ものをくいせつあるをれくさをもちもとをぶけるがもの
ものをもけばあぢ死ぬくさぐさいひもろひつ廊（ろう）かをは
しまてげらしくめづへなる。

○

ぬふうまてもひく縫（ぬ）あまるへ人あ死人日をまぬれがある
家の戸（と）をまておて、をどかちうむといへばうをあまて
あなていまけまあるすれたるをおろうはおろうもち
きるものにくさのきびへのつころ、おろうぶるをえ
くいうでさはこをもれてゆあうーうぶものにてむ
やをおもひて、けるでふをやきいへば、若荷（こやう）をとれきる
人をおろうぶまて物をすれするものをのふをを

て、あを（菜）せろこのこふこをうぶをいきてくこをつまてけき
ぶをとをけをもぐれろをえふおおいぐをもちてゆおぬ麦ハ
きびへのをすれきるものをむと、ゆるるとおろにけをて
ひんまばはやくこのをとうれーくいをつるこをうぶハをる
をうわなるまとへばあるぐいふ若苗（こやう）をおををーかを
いうぐき物をすきてりぬとのふまあちたをろをすれふ
とをへばとれをあてべおかて（粮代）そのぜにをすきていよをわ
やをへばはをおふくとのをくいよくはーをもちをを祭
人ををうまてをのとをむとてかへまておのれ扶（ふ）をー
いうをまふばーぐうをるいうをつうまで死物めづ
あうける。

○むかしかたりつたへふすまのひあるをたれ。此後ちつたへれば。世の學ふ人ゆきく孝經論語乃をぢ。おじ。かしまぢ。ぢ。ぢ。

○

越前の国の人任はてゝ京やまふのぐむしをうり
すゞのもくれるをけをばそのもちたる男一人退し
ていでさりあかへりつゝて見れば

○

ちういつぞとて人ばかりを集て人々ふゆさふ（冬葱）ちろ
のさ紀いぞありおまめづしかでゆにうめづらなむ
やといふく者こそれすのちよ毛ぢう毛つねたさう
とばうわまもわぬ仏わ森のうちれもの見くゝ拾ゝ
ゝ見ゝ者ゝこそまらうふかちて見ゝ仏るゝ山
伊（よのつ）後ものなり仏ふ人未央宮（びやうきう）乃屋（うく）こそ仏れる硯（すゞり）を
ゝ者わ者ま道関（ゐうきん）胡（こん）乃ゝ者こゝはふさず童（ちうきう）ゝ
行ふものふゝ天下にさう礼ふものくゝそ仏ふを
拙めおくいぶ天ずふ仏さのゝ乃いさう見よあて
しく管（くわん）とひゝさづゝを紀とり出て人まかこて
こせ仏わめのとの夫（そう）仏るゝ者此ぬるゝ見のぐ見

こそ有仏るぶゝとゝ者の硯（すゞり）ちめゝ者ゝ行ひ
いゝだゝ見れ價（あたい）をゝぶいぶ行ふゝ見ふ者（うゝ）ぶ百あゝて
かひひつゝいへハ舌をちめ拙ぶゝふ身をゝるりつゝ
紀ゝゝ者ふ丁ゝ者ふ紀あゝふを仏るゝ拙ゝ礼ゝを
をゝぶ仏者ハ者ゝ者ゝゝゝ礼ふゝ者ゝ仏ゝ拙ゝ
さゝやゝ者ゝ物ふゝゝぶ孫百ゝのあゝひ物ゝゝ
仏者ハ者ゝゝゝゝめゝあぶ者ゝ仏ゝゝ者ゝ者（竈）ひ
のあゝゝゝゝこゝゝいゝく者ゝふものふゝ仏者
仏者といひ仏ゝ者ゝ人のゝゝふハゝゝゝゝゝひぶし
かゝぶ者れハゝゝゝゝゝゝ者ゝ者ゝ者ゝ
てふゝゝのめゝあゝふ人のゝゝゝかゝかゝ物ゝゝ

あとびめまいはちろざ一ぜらーすふまわとろふるふまあと
にをひとくまふをわ。
ちをすりあろ。ぶ面実相といふふ。ちろ一ぜ人ぐわゆま
ふふよあるぐいとさむしからうぐに。おまーさあるきを
ぶといへばづふはちろえくきてさてるふをとまばくゆ乃肉
のあつるふちふいはりふわ。さてうちちあておは
さとふふをのるるしてありふると紀ちろれくまをて。
ちふ皮のえをいるでくちふるぐはきしも紀ふふるふうち
あぐてあぐはふをまうとにふくまいてよ。ぶしはちろつて
はうふおとろひふわ。何幸のちろふうろぐくかうあうを
いひいぐきわふむいとふぶうし。

○

まづしき人あり。ふるむ。ちろおりよりちびまりしにいでき
むとてずざりをまあ。人を盗とひふやりをるとふ紀が
ぐしてさろふおちをとれば。家やまありちろそいとさとこ
ちげるまばかくそを人をろるる紀ぶ。さろくておといへば。紀
かふふはちろをちてひずとちふ。さてば佐ふ奥をむも。
ぶ。ぶやーいぶを用をーかへるねとへばやとひ人。衣
のこぐるーるて。人をろしとふ紀ばさばうちれなど。一二町
ゑふおぐるまくはとをはたうまろむを。いうりとぐいはる。
さるふくも奥せざろむ耳をまさりるむやーるで。
初秋いあっるふちるーるを行とて。こやとゑふをいい
ずまりうでる人おはるる。十七八日のちろはぐ市のち

月は宿るる人ぬいそぎ。おしまわ屋どのあるじ。こそいは
はたにやらうどおれ。なきバ。ひとりのこすべは。枕もとにぞ。いふ
せ乃しとおもひ。あるがさやかりしたて。隣なる木蔭
家よりゆるる。ゑつあしぐるぶしかりてさて。枕より出て。
やらうどおいぐつおの〳〵寝もづまりてうち。十ばわ
なれもこはの。枕もとにめのさめこれば。やもこもる
らせてくかり。屋うちのせて。眠なるぶくねいうしぬまバ。
やう。面ちもべりて。目をさまし。川うくいくまぶとる。
ふまてく。祈りれざるけまに。母の父をよぶおりて。来
ゑくよまてれたまくいも祈ず。ゑぢ枕していわむや
ちへどそーまのりつぶの乃ゑ。をず。ちくあす。観世

経ふ。系ゑとおバゆぐちやかうふゑなむいふせ乃しやつひ
けるふいをさりくいとおしうるゑなり。

○

ゑて法師乃人のもたとば。枕て来いきく。ゑまて。帰ゑ
きなる道ふくゆりちなくゆふぎちれるゑいぐなるふうの
かさを。ゆるゑ。ゆれバ。ちとてぬまつい。枕ぐを。面ハ。
とやこるく。祈さ人。わはくあ。ゑびきく。奉ク。紀ゑ
なり。ゑとあたせく。大ゑを。洋こうく。ふも。八大龍王ハ
あめ。ちなーやあふびゑん。ふちいのゑ川ゆく。聖ゑ
なれハ。ゑちよるべ。紀木ゑぐふす。面ちゑぐ。ゑるもう
ふゑて。盃乃水。うちふふる。屋う。ふゑ。ふゑこて。ふう
屋ふあるぐたいゑ。ちのびぐー。はぬ。ちうもぬぐ。たふ

さ紀ぞるまにちりて大地よ産し出ぬ。さ孫さ国ゝこ大さふこ
ゑ。ゝおて空をゝゝこゝ高あげく。いひらるさふれゝ。あれ
ゝ。ゝぞ姫ふ高ま。ゝめゝ。ゝ。ゝ。

竹垣(たけがき)をおしまろばしてたくさん琴(こと)乃音のしるべ音は、
ゆうべかいまみせんとおもひをぶねしこあぐりて竹垣
のすきまより云ひあるところ城こうあてこころでふれかけ
さいまてはんれば卯花(うのはな)垣をふさぎこそまてよくを
見ぬやどすれをてこそくさ紀あるべて女はみ人
乃をとに幸ふあくむうちうちひねどする紀めし
られずのおもてあるふれくれてるを人のいでさて何
だとうつぎこそいゆきバすれおろしてこまいとぬいとぬ
みぶるるく入ふなるれと無くてかへらまとおきひて
くびーいでむとするふめをず乃ぬあれどちふくぐを入
うす。こころでふ竹を井一日あるをけるゆ乃ふや縄つく

ちをりてぬ紀ず。さわとのやとをぐ人けをハいよくはくちすわて
いふたのやをくびるくばりにをりぬるるーこふくゆう
め紀ふをバあるべしたるべし竹垣乃をふ人の乃をする紀
をてちづよるをこそおのをこそ。大なる紀りちて。いふ
おのをけうきられふるたびるむとぐいひるふよく
あるをそをちふををとり。

○むーちまくこを紀娘君おりーあの伊(賞者)を紀のようちびの
日をて女房をちを紀ずあ人をめのようあるる人娘をふ
むーひ乃ゆーせくれををめさせ行ひてハをのふまで
とををふとうるるとめをバよろびおいるふちづ乃紀せ
ををるひ。おわどう紀れををたーむる。ハ乃ふ。ハ乃ふ。

○

[illegible]

学生添乃ちしづ家ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

そうべしとかうまうに顔淵賢四間よりとりてはくまれやいはバ
ようへぶにくらいくうあづかるふとの
れうりがしまとつめすがしかれいはまへをもろし物
をめをむうりて、ゑ面おろけく一所ぶるふ屋ほくを
ゑる。来屋三人つまりてあれと検非違使の廳より
ゆきもろ左ふ嵩のもの、どもをもをするやく
下司屋敷、あぐらして嵩人のうで紙ひうきもむべ紀の
さぐあふうわるるおまにはわて、ひりふ人あまをへける
ゆふいいうぐくまづし紀人めさまてもの役ふぐくハをも
ける。大ふおうもうて、さのふまでもうるめ、おしりはける
ものどもに、いおもひけおるもどをもはんをかし紀ぞ

おろふかふ人居屋、さてこあぐうどありくふを徒者文
ばうの奥すべおまいうるをおろ人ずざのうわ言後ば、
俄よ人をもとして、をめうまて出けるうぐいへのちろ紀あわ
ふ嵩れ小嵩あるをにふをちうりて嵩人やあるをよべど、
いへ人するものれしいちて、大ふおよべバむひいる、竹垣
の門の中より、老かぐをるる翁、出さて、ついめてめぐ、
おのれ嵩人うとへバ、さふ行るをいうへ人ハで小面をあらく、
嵩をでをあるぞ、おちやれ作せをを紙、こやうぐふ面
てあるおろうるあけこれわ、が富の廳よりて、う紀あをてん、
おのれをまこぞ、なのうをせををへバ翁かいはりて北のれ
まはとを嵩人めくハはハず、むひいるあの、門をわふて

行まで、きでいるゝ乃ゝ、ゝ、だ、ゝ山屋れあるをおろはあ
てあれ山やとそれて行とゝる紙名をとゝせ彼ゝ、ゝま
ゝゝをあ行ゝふゝまゝとの婦人のいでゝもをゝゝ
ゝゝいてゝゝゝ行しねゝゝす、ゝゝゝゝゝの婦人ハいづ
ゝゝあるゝゝ人ハゝゝゝゝ風病ゝゝよゝ人でゝゝゝゝゝ
ゝゝゝて行ゝゝゝゝゝ

ゐ〜八をの公ゞるとずのおふ机をていぢ〜ぢゐいつ・柳
函をわをゐと七自ばゐわをもゞて八道意よおわゐちて
山板さいゞもやめおれ下しよおをひつる袋さとせげるし
ゐわ・とおいをゐゞ函をゐとけるかおあわゐてゞゐ八をかめ
けるまゐる歩ても歯の下にゞもれ入来く紀おめゐむふ
を・おわてゐぶめむやゐもあゐをかおゐも歯入おゞわ
けるよゐゐ八ゞ〜ゐ・おわゐに紙ゐおあ世てさゐて行わ
歯の下にぬきゐゐれをふ八ゞゐわ行ゐるゐいすゐとおる八行
へく侍も初歯をを紙ぬきゐ八ゐゐおめ紙て答ふをさめ
て歯ゐく後ゞさ〜行わ行ゐるゐふよ八をゐもあゐれく夫
くちゐゐゐけ・さゐゐれおゐむふおゐ〜く〜ゐ八れ行わをの。

おすゞ下八ゞゞ入道のゐゐふ糸ゐをゐゞちゐれをゐゐ
あゐけるゐ紙ゞおゐてふすゐゞにゐゐゐ行れ八歯八ゐをを
ちゐてふ行ゐゐ〜八人のおふてもゞゞゐゞずゐゐふあ
すふいゐ紙ゐふけまゞ八父ゐゐゐふおゐゐて人ゐゐしゞゐゐと
ゞ〜ふいひゐふをゐゐさて移ゐふゐをゐをゐ行をゐ〜ゐ
ある行ゐゐちく起出ゐくゐゐゐうゞゞゐゐをゐて居行ゐ
ふゐ行ゐしゐおゐゐちゞゐのゐゐてあゐける紙ゐ下八ゐゐゐ
くゞゞさゐゐゐをゐゐゐ行ゐゐしゐふゐ下ふゐゐ行ゐ
かゐゐをく行ゐゐいけふあ紙ゐゐゐ〜やれ。
丹後あゞおゞまゐる男あゐゐゐゐゐ〜海ゞ男事をゐゐ人
ゐゐて紙もいゐゞ純ゐゐ明ゐゐゐむゐて行ゐ○小濱ばゐゐ

出てさかよしあるを見るに亀のふなりなる紙をもておきやうの文
のあかいろをもて甲乃うへふれるをみるにさるがおくふうにあるを
うつる新男をうけきばかめを形ふうをれて刻げ死なる
こしおれうをもて死さまどあるをすかふうを亀ふ出るをさかな
もしありさまふあるをみあてやうなる女いでさくひれを
誘言のはらいれるをいざをもてへよいへばうまをあくしいな
して沙かしまなしかるかやあるとをへば女を龍をもち
大なるかあるをもて沖乃うを成さしてあゆしをおいろえう
よて家でてのるをそりたわさて龍宮ふつちうを誘を考
御前はおのるをてをまをいをふはたをまのをく作りみ
くをふをすあるむをで知るをとを家をとく尋おしてまる

[illegible]をしまいとあるが乳の[illegible]をかくせば[illegible]
さむいとをおもひにもあらぬ行[illegible]
[illegible]をなるべくこやしよくいへどもし龍王[illegible]
のこおハさうす[illegible]
けづ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬ。ふてとりえてきてる。玉のはこよりのくいちぢお貌
をうどいへばさぞ侍るむとうちて。龍女のものあるハ。光
明や紀ちんをいれいと古代なる物とこんてふち紙ども。か者
そんじらるしも所こけ物ちてをゆるあ。さきを用
あるものにはうとふさの男箱をあまこびれ。いそぶま
ていで知る紀て人くふしをぞゆせてん。おもう知るもかぐ
やく姫生きばうせずハ服るあおちん。おのおろをよ
とて。むをびる級と紀てきハ知らくがきてあ三月きハ。
いさうの知るわぶにはなずあろくやしもがきてあるるあ
なるとわてこれハふるおはるとろ知らあ。ごたびうう
知るやどのやまをほおろびるるごこらいきくあ。ワ。

人くさてくとのもくあざくおどろおて。あ紀るに紙
ふさぐ云と知て。おろ男の生もうあ。おりひつある
をとやう物のおるてふくるもかどそうきろ生るとぶ。
ううのものとをいもるふものうやくせんハ。ぶ知ふ
おとふ。

志ゝのすみか物語下編

尾陽東壁堂製本畧目録

上紙摺為用摺
用好次第末仕

和書之部

古事記傳　四十五
同目録　三
神代正語　三
神壽後釋　二
直毘靈　一
萬我の比禮　一
葛花　二
三大考　一
冠位通考　一
萬葉集畧解　三十
古今集遠鏡　六
後撰集新抄　十八
同別記　一
新古今集抄　五
美濃の家苞　五
同折添　三
尾張氏家伝　五
同後編　四
三代調類題　六
伊勢物語　二
玉勝間　十五
玉ゝ一多　一
鈴屋大人都日記　二
江戸職人歌合　二
御遷幸長哥　一
答問録　一
志ゝの住家物語　二
狂哥作者部類　二
雅語音聲考　一

經書之部

羣書治要　四十七
四書集註道春点　十
同上紙　十
同片假名附　四
同字引　一
毛詩國字辨　十
孝經鄭註　一
同指解　一
服膺孝語　一
國語定本　六
莊子因　六

明季遺聞　四
牧民忠告解　一
女いまゝ免　一
傳子　一
常語藪　二
物數稱謂　一
律數楊榷　二
从翁茶史　三
國朝画徵録　二
文選李善註　十
同上紙　十
詩集之部　三

詩書之部

枇杷園發句集　二
同後編　二
同類題發句集　二
同三日月集　一
同麻苟集　一
同崔芝集　五
同五七集　五
同鳶の眼　一
同瓢日記　一
同菴の犬　一
同法々花經　一

劉向說苑　五
同考　一
同參註　六
同上紙　十
同列仙傳　一
韓文起　十
今世說　一
世說音釋　五
左傳蒙求　二
星渚堂對問　一
大學參解　一
論語參解　五

暢園詠物詩　一
日下新詠　一
晞髮偶詠　一
畸人詠　一
先友詩抄　一
寒林刪餘　一
金山稿　一
宋詩合辟　一
清百家絶句　三
蒙求標題詠　一
金城白湯集　一
日本詠物詩　三

同隨筆　一
同七部集　小本　二
同二編　二
同三編　二
同四編　二
同五編　二
也有翁鶉衣　合本　四
同前編　三
同後編　三
同續編　三
同拾遺　三

醫書之部

積聚編 一
備考方 三
提耳談 五
温疫論 一
藥品考 一
古方通覽 一
方書摘要 五
經穴秘授 一
醫事古言 一
吐方撮要 一
的治療方 一

醫家千字文 一
痘疹妙藥集 一
妙藥手引草 一
易書之部
增補卜筮盲節 一
同文政再板 一
同増續 二
同大全 三
同極秘 二
同卦象解 一
易道早合点 一

冢田物
冢註周易 四
同正文 二
同毛詩 十
同正文 三
同六記 六
同老子 二
左傳増註 十五
孟子断 二
昼錦行 一
作詩質的 一
江尾往還蹤 二

物品識名 二
同拾遺 二
蘭藥鏡原 三
瘍科精選 二
内外要方 四
同二編 二
同三編 二
同四編 四
傷寒論持解 五
宋板傷寒論 三
同上紙 三
同正文 一

佛書之部
釈迦應化畧諺解 一
宗門畧列祖傳 四
釜斯幾 一
閑居忘草 二
圓戒琢磨訳 一
圓光師御傳畧賛 二
永平道元行状圖 二
観音施無畏圖 一
現生護念之圖 一
菩薩戒童蒙談抄 一

論語羣疑考 十
大峯文集 七
滑川談 一
天文暦學之部
天文中星風雨考 一
天文候鑑 一
日用暦談 一
観象圖説 三
晴雨管規 一
晴雨考 年々出板 一

手本物之部

長雄書札集 一
長松貴札帖 一
空洞書翰 一
大橋遺帖 一
同改年帖 一
同今川狀 一
同池凍帖 一
同書用集 一
同當用集 一
同書札集 一
同新消息 一
猴山詩哥帖 一
同乞巧帖 一
同年中帖 一
同尺一集 一
同千字文 一
同書通案文 一
同書札法帖 一
同嵯峨名所 一
同四季かな文 一
自在用文章 一
荒木今川狀 一
同赤辟賦 一
正面摺之部
王由敢寸珍孝經 一
漢魏隸書帖 一
九疑山碑 一
郭有道碑 一
義之周府君碑 一
李邕沙羅樹碑 一
渤海藏真帖 一
東坡自我帖 一
同大江帖 一
同帰去来詩帖 一
董其昌天馬賦 一

同初學手本 一
同かな手本 一
同庭訓往来 二
同風月往来 一
同明衡往来 一
同商賣往来 一
同江戸往来 一
御家書札文海 一
同上紙 一
同諸文通用 一
同上紙 一
同早速千字文 一
定家朗詠 二
行成朗詠 二
二節詩歌撒英 一
立花當用集 一
琴曲桃の宴 一
筝曲大意抄 六
同二ッ輪入 六
武家俗說并 三
諸禮大學 一
同上紙 一
神術極秘卷 一
同衆鳥帖 一
同秣陵帖 一
道風草書帖 一
信海三十六歌仙 一
陋室銘 一
草木性譜 三
草木有毒圖說 二

石刻法帖之部

夫子廟堂碑 一
朱子風雪帖 一
宋七君子法帖 一
歐陽詢九成宮 一
子昂要雇帖 一
同羊公帖 一
徂来大暦帖 一
廣澤樂得帖 一
米元章天馬賦 一

画譜繪手本之部

北齋漫画 十二
北齋画譜 三
同上紙 一
一筆画譜 一
両筆画譜 一
同上紙 一
三體画譜 一
道中画譜 一
浮世画譜 一
同上紙 一
同二編 一
金氏画譜 一
鶯村画譜 一
名家画譜 一
同二編 一
福善齋画譜 五
豊國年玉筆 一
柳川画帖 一

筭法之部

本朝筭鑑 三
開式新法 二
玉積通考 三
黙寛指南録 三

繪本之部

繪本新山科 二
同教の近道 一
同服膺孝語 一
同上紙 一
同大江山 一
同彩色入 二
同曽我物語 一
同彩色入 二
同咲分勇者 一
同彩色入 二
同上紙 一
琉琳漫画 一
蕙齋麁画 一
同二編 一
神事めぐり 一
同上紙 一
北溪漫画 一
同上紙 一
壮雲漫画 一
同上紙 一
文鳳麁画 一
同上紙 一
同二編 三
同三編 三
同四編 三
同五編 三
周髀筭経圖解 五
同國字解 二
筭法工夫之錦 三
同發隠録 一
開運ぜんあり記 一
萬宝大通考 一
八木龍の巻 一

字引節用之部

滿字節用錦字選 一
同中紙 一
同上紙 一
早字節用集 一
同上紙 一
同大全 一
同上紙 一
同真字附 一
同上紙 一
四穀節用集 一
同上紙 一

將棊之部

將棊道標 一
同觀手 一
同金襖 一
同鷲扒 一
同定跡 二
同連珠 二
同名家友 一
同古今集 一
同相掛集 二
同指南車 一
同百番筴 一

百人首之部

棲鳳百人 一
同上紙 一
蓬莱百人 一
同上紙 一
吾妻百人 一
同上紙 一
錦葉百人 一
同上紙 一
麗玉百人 一
同上紙 一
今様百人 一

永樂古狀揃 一
同上紙 一
同假名附 一
同上紙 一
初學古狀揃 一
同上紙 一
同假名附 一
同上紙 一

渡世肝要記 二
同上紙 一
碁經之部
碁經奕範 二
同奕筌 二
碁立手談 一

同上紙 一
女今川貞操鑑 一
同上紙 一
秉穂録 二
同二編 二
彼此合府 二

東都 書物問屋 尾州名古屋本町通七丁目 江戸日本橋通本銀二丁目 濃州大垣大町

永樂屋東四郎 同 出店 同 出店

愛知県
1105087387
935
イ
1-2